

TR500042

Moldflow 解析精度向上の取り組み

松元 篤志
テクノハマ株式会社

学習の目的

- 物性測定 of 技術的意義について検証します
- 正確な材料物性取得により生産準備コストを低減します
- 新規材料の物性データをタイムリーに提供します
- 材料物性に起因する解析精度課題を解決します

説明

樹脂成形をとりまく周辺環境は日々変化しておりそのスピードもますます加速しています。その変化に対応して生き残りを図るために、自動車部品製造関連会社として生産準備の短納期化、低コスト化は永遠のテーマであり、かつ昨今の環境問題対応を同時に達成しなければなりません。その解決ツールのひとつが Autodesk 製品をはじめとする事前予測技術の活用ですが、具体的な成果に結びつけるためにはアウトプットの精度をいかに上げるかが課題となっています。その課題達成のために、ソルバー自体の改善とともに、インプット（Moldflow の場合、おもに製品、金型、成形条件、材料）情報の精度をいかに向上させるかが重要と捉えており、その中でも材料について、正確な物性をどのように取得し織り込むかに着目し、Autodesk 社とともに技術開発を進めた事例を取り上げ紹介します。

スピーカーについて

2018年～ テクノハマ株式会社取締役

「Moldflow 解析精度向上の取り組み」 概要

Moldflowにおける材料物性測定を手の内化することで、解析精度向上と生産準備コストの低減を実現した事例を紹介します。

射出成形CAEの取り組み

弊社における CAE 活用の概要と位置づけ、課題について説明します。

物性測定手の内化

材料物性測定手の内化の概要と、それによる解析への影響について説明します。

生産準備のしくみ再構築

CAE を含めた生産準備活動のデジタル化を含めた新たな取り組みについてご紹介します。